

奈良市市民参画及び協働によるまちづくり推進計画 平成25年度事業評価総括表

No.	事業名	課名	開始年度	方向性	総合評価	協働に対する総合評価の理由など
1	奈良市ボランティアセンターの運営	協働推進課	H18	継続	A	お互いの特性を活かし、相互に自立した関係を保ちながら事業を行えたため。
2	もてなしのまちづくりの推進	協働推進課	H19	継続	B	積極的に意見をいただくことで、市民目線での検討に寄与できたため。
3	宇佐市・奈良市友好都市高校生交流事業	観光戦略課	H25	継続	B	互いに良好な協働関係を築けた。市民への広報、今後の交流の持続性に一考の余地あり。
4	男女共同参画活動団体協働事業	男女共同参画課	—	継続	B	女性団体及び市民グループによって事業の自立に差がある。
5	地域人権教育支援事業	人権政策課	S48	継続	B	協働開催することで、相互に補完し連携することができた。
6	中学校の弁当選択制	保健給食課	H20	継続	B	配膳員ボランティアとともに、弁当選択制の事業が達成できた。
7	教職員教科研修事業	教育支援課	—	継続	A	教職員の資質能力向上という目的に沿った研修講座を実施することができた。
8	教育センター学習事業	教育支援課	H23	継続	A	イベントの計画から実施、評価に至るまで団体と連携して行い、中身の充実したイベントを実施することができた。
9	学校規模適正化検討協議会との協議	教育政策課	H20	継続	C	学校規模適正化については、保護者の思いと地域住民の思いがやや違う場合が見受けられる。適正化の対象地域によっては、協議会を設置することに理解を示していただけない場合があった。そこで、総合的に判断してC評価とした。
10	地域で決める学校予算事業(学校支援地域本部事業)	地域教育課	H20	継続	A	事業を地域に委託し、地域が主体的に学校園の支援を行っている。
11	放課後子ども教室推進事業	地域教育課	H19	継続	A	教室運営のための協力者はコーディネーターを含め、2639名にのぼる。
12	黒髪山キャンプフィールド管理運営	生涯学習課	H12	継続	C	目的を共有し、より利用される施設になるよう管理運営並びに事業の実施に取り組んだものの、利用の促進、拡大に繋がらなかった。
13	生涯学習センター・各公民館における主催事業の協働	生涯学習課	H13	継続	B	協働相手の拡大、協働事業の推進、互いの特性を踏まえた役割分担などはできているが、「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢・意識等に課題が残ると考えるため。
14	公民館運営審議会	生涯学習課	S26	継続	B	委員の方々の経験や知識を生かした審議を行い、今後の公民館事業の発展が期待できる。しかし、審議会という性質上、事務局と委員の適当な関係性を評価することは困難である。
15	おはなし会	西部図書館	H20	継続	B	おはなしの会との協働はうまく実施できているが、目標値の達成は難しい。
16	市民考古サポーター活動事業	埋蔵文化財調査センター	H21	継続	B	お互いが事業の目的を把握・理解し、協働して各業務を実施した。
17	奈良市文化振興計画	文化振興課	H19	継続	B	計画の見直しなど新たな課題を設定し、第2版の計画を策定することができた。
18	ならまちわらべうたフェスタ	文化振興課	H5	継続	A	今年度は当日が雨天であったが、各団体はそれぞれの立場で今まで以上にイベントを盛り上げるべく工夫をこらしていた。参加者は例年より少なかった。
19	旧入江泰吉邸活用ワーキンググループ会議	文化振興課	H23	継続	A	施設の設置条例や規則の策定、指定管理者制度の導入などで最大限ワーキンググループの意見を取り入れることができた。
20	奈良市西部会館市民ホール(学園前ホール)の運営	文化振興課	H20	継続	A	公平、公正な施設運営ができた。また互いを補完しながら業務を協働で遂行出来たと認められる為。
21	奈良市北部会館市民文化ホールの運営	文化振興課	H20	継続	B	指定管理者が円滑な業務の遂行をしていると認められない部分があったため。
22	奈良市都祁交流センターの運営	都祁行政センター地域振興課	H22	継続	B	それぞれの役割について更に協議を進める必要があるが、市民の文化芸術意欲の高揚につながった。
23	奈良市都祁生涯スポーツセンターコート等4施設の運営	スポーツ振興課	H22	継続	B	地域性を考慮して、施設の管理・警備を自主的に行っている。
24	奈良市青少年野外活動センターの運営	スポーツ振興課	H21	継続	B	魅力のある教室・イベントの実施等により、利用者の増大を図った。
25	奈良市都祁体育館の運営	都祁行政センター地域振興課	H22	継続	B	それぞれの役割について更に協議を進める必要があるが、各スポーツクラブを始め、市街地の各種クラブ団体等の利用促進につながった。
26	地域福祉活動の支援事業	福祉政策課	H16	継続	B	対等で、お互いパートナーとして主体性を活かしつつ、プロセスを重視して取り組んでいるが、達成目標数には至っていない。今後は、より一層の協働関係を深め、機関やプログラム内容を検討する。
27	奈良市月ヶ瀬福祉センターの運営	福祉政策課	H22	継続	B	福祉センターが、センターだよりを発行するなど地域に溶け込み、福祉活動を行っている。
28	奈良市都祁福祉センターの運営	福祉政策課	H22	継続	B	福祉センターが、センターだよりを発行するなど地域に溶け込み、福祉活動を行っている。
29	奈良市子ども条例検討子どもワークショップ	子ども政策課	H24	完了	A	子ども達から多くの意見や提案が出され、今後子ども条例を検討する際の参考とすることができたため。
30	奈良市子ども条例検討委員会	子ども政策課	H23	継続	A	市民公募の委員から、積極的に意見をいただくことで、市民目線での検討に寄与できたため。

No.	事業名	課名	開始年度	方向性	総合評価	協働に対する総合評価の理由など
31	子育て親子の集える場の提供	子ども育成課	H5	継続	A	交流会、スタッフ研修等を実施することにより、当該事業の主旨や目的の明確化と共有化が図られ、子育て支援の輪を広げることができたため。
32	子育て支援アドバイザー事業	子ども育成課	H18	継続	B	活動回数は大幅に増加したが、アドバイザーと地域との交流・連携化を図る取組が少なかったため。
33	奈良市幼保再編検討委員会	子ども政策課	H23	継続	A	市民公募の委員から、積極的に意見をいただくことで、市民目線での計画策定に寄与できたため。
34	視覚障がい者向け広報等発行事業	障がい福祉課	S57	継続	B	互いの役割分担は十分行っている。この事業の根本である市広報誌作成の段階から協議等をする体制が出来れば、よりよい情報を視覚障がい者に提供出来ると考える。
35	奈良市子ども発達センターの運営	子育て相談課	H23	継続	A	療育相談室(直営)との定例会議でも真摯な姿勢であり、療育について研修を重ね質の向上にも努め子ども発達センターの公共性を十分理解した児童発達支援を提供できている。
36	認知症サポーター養成講座	長寿福祉課	H20	継続	B	協働相手は、事業の目的を理解し自立した活動をしているが、上記のB評価項目においてできていない点があるため。
37	奈良市老人福祉センターの運営	長寿福祉課	H25	継続	B	センター開設当初より現在の協働相手が管理運営を行っており、その経験を生かした施設運営を行っていたが、依存しすぎないよう、適度な緊張感を持たなければならない。
38	奈良市立都祁診療所・月ヶ瀬診療所の運営	病院事業課	H22	継続	A	互いの立場を理解し、特性を活かしつつ、協力しながら事業を進めることができた。今後も協力関係を継続しながら事業を進めることがふさわしい。
39	奈良市立柳生診療所・田原診療所の運営	病院事業課	H18	継続	A	互いの立場を理解し、特性を活かしつつ、協力しながら事業を進めることができた。今後も協力関係を継続しながら事業を進めることがふさわしい。
40	20日ならウォーク	健康増進課	H18	継続	A	コースづくりから当日の運営、反省会に至るまで協議会主導で実施することができた。役割分担を行い、市が参加者申込受付を行ったことで、参加者数の把握ができ、さらに安全に事業を行うことができた。
41	食生活改善地区組織活動推進事業	健康増進課	H5	継続	A	地域伝達活動以外に関係団体と協働で、食育講話活動に取り組んだことで、食推協の活動の場が広がった。
42	奈良市総合医療検査センターの運営	保健総務課	H23	継続	B	医療という専門性の高い事業であるため、よりよい協働関係を築くためにはさらに協議の場をもつ必要がある。
43	奈良市食育推進会議	保健総務課	H20	継続	A	互いの特性を生かして、共通の目的を達成するために協働事業を進めることができたため。
44	医療相談事業「春うらら会～神経難病患者・家族の集い」	保健予防課	H16	継続	A	患者家族の意向を踏まえながらお互い協議の上方向性を決めながら運営出来た。
45	住まいの耐震化のすすめ	建築指導課	H22	継続		平成25年度は開催していない。
46	自主防災防犯組織活動交付金	危機管理課	H18	継続	B	各地区での自主防災防犯活動がより多く実施できれば、さらなる防災防犯意識の向上につながる。
47	独り暮らし高齢者世帯防火訪問	予防課	S46	継続	B	防火訪問を実施したクラブは意識の充実強化を図ることができたと思われるが、女性防災クラブが未結成の地域があり市内全域に活動が及んでいない。
48	幼年消防クラブの育成及び活動	予防課	S62	継続	B	文化財防火教室により幼年期の防火教育の高揚が図られたと思われるが、施設見学会への参加は一部のクラブにとどまった。
49	応急手当普及啓発活動事業	救急課	H6	継続	B	講習会受講者より講習内容は高評価であった。応急手当の必要性の理解を得られた。
50	放置自転車ゼロ商店街計画	防犯・交通安全課	H23	継続	B	放置自転車を一掃するための啓発活動を実施したが、依然として自転車等が放置されているため。
51	奈良市自転車駐車場の運営	防犯・交通安全課	H18	継続	A	指定管理者と連絡調整を行いながら、施設のより良い運営に努めた。
52	地域防犯活動推進事業	防犯・交通安全課	H21	継続	B	活動団体には自主的な活動をお願いしているが、活動内容について協議する場を持つことができればより良い安全・安心なまちづくりを推進することができると考えられるため。
53	奈良市地球温暖化対策地域協議会	環境政策課	H21	継続	B	協働相手と目的を共有することはできたが、それぞれの役割分担を明確にできず、行政の担う役割が重くなり、協働相手の自立化を進められなかったため。
54	奈良市環境基本計画推進会議	環境政策課	H24	継続	B	外部委員による施策の評価を実施するなど、これまで行っていない取り組みを進めることができた。
55	奈良市環境教育推進会議	環境政策課	H24	継続	B	環境教育の推進という共通の目的をもって協議を行うことができた。
56	アダプトプログラム推進事業「さわやかクリーン奈良」	協働推進課	H20	継続	B	団体の活動に参加したり、団体交流会を実施することで、市民との信頼関係を強めることができた。
57	佐保川清掃	まち美化推進課	-	継続	B	住民による自主的な活動を尊重し、本市の役割であるごみの収集・運搬処理を支援することで、それぞれの認識が高められた。
58	人と動物がともに暮らせるまちづくり事業	生活衛生課	H15	継続	B	自治会との連携により、事業の認知度は高まっているように思われた。ポスター内容の選定課程における自治会の関わり等、協働について工夫することができれば良かった。
59	環境フェスティバル、ならクリーンフェスタ	企画総務課	H6	継続	B	前年度に引き続き、協働イベントを開催したが、それぞれの役割に基づき盛況に開催することができた。
60	ごみ減量キャラバン	企画総務課	H24	継続	B	前年度に引き続き、協働しごみ減量の啓発を行ってきたが、ある程度はそれぞれの役割に基づき市民へ啓発することができた。

No.	事業名	課名	開始年度	方向性	総合評価	協働に対する総合評価の理由など
61	クリーンセンター建設計画策定事業	クリーンセンター建設準備課	H17	継続	C	共通の目的であるクリーンセンターの建設に向けて、策定委員会を2回開催し協議を行ったが、候補地周辺住民からの合意は得られなかった。
62	まちかど景観発掘隊	景観課	H22	継続	A	協働で開催することにより、新たな街かど景観を発掘し、今後のまちづくりに生かせると考えた。
63	違反広告物を出さない街づくり推進団体	景観課	H16	継続	B	各推進団体の自立化は出来ているが、団体毎に温度差が見られる。
64	都市計画道路整備事業(三条線)	街路課	H8	継続	B	良好な歩行者空間の整備による商業の活性化や沿道商店街の賑いを再生するとの目的達成に向けて取り組めた。
65	グリーンサポート制度	公園緑地課	H20	継続	C	多数の団体が活動を開始し、多様な要望・意見等が寄せられたが、活動支援、広報活動等の十分な対応ができなかった。
66	なら燈花会開催事業	観光振興課	H11	継続	A	奈良の観光オフシーズンである夏に、多くの観光客を呼び込むために始まり、ボランティアの協力なくしては立ち行かなくなるイベントで、協働し観光振興と地域振興につなげることができた。
67	ガイド付きツアー	観光振興課	H22	継続	A	事業実施にあたり、互いのノウハウを出し合い、協働して進めることが出来た。
68	しあわせ回廊～なら瑠璃絵～開催事業	観光振興課	H21	継続	A	奈良の観光オフシーズンに一つである冬に、多くの観光客を呼び込むために始まり、ボランティアの協力なくしては立ち行かなくなるイベントで、協働し観光振興と地域振興につなげることができた。
69	バサラ祭り開催事業	観光振興課	H10	継続	A	実行委員会が主体となり実施されているが、広域的な広報や駐車場等実行委員会で賄いきれないところを協力し、事業を実施することができた。
70	月ヶ瀬梅林周遊道路整備	道路建設課	H17	継続	D	奈良市と改修委員会の協議内容等について、地元関係者への周知が不十分。
71	転害門前観光駐車場の運営	観光振興課	H18	継続	B	管理運営については、指定管理者が主体的に行っており、市との良好な協働関係により実施できた。
72	奈良市ならまち格子の家の運営	観光振興課	H18	継続	B	指定管理者の主体的な企画運営により、効果的な事業を行うことができた。
73	奈良町からくりおもちゃ館の運営	観光振興課	H24	継続	A	活動団体と適宜調整を行い、奈良町観光振興に大きく寄与することができた。
74	旧鍋屋交番きたまち案内所	観光振興課	H24	継続	A	お互いの立場を尊重しながら、密接に連絡を取り合うことで事業を進めることができた。
75	史跡・名勝をめぐるウェルカムサービス～知って奈良とびらガイド～	観光振興課	H25	継続	B	転入者に奈良の魅力を知っていただくという新しい事業を協働して開始することができた。
76	奈良市きたまち転害門観光案内所運営事業	観光振興課	H25	継続	D	案内所の運営を開始した初年度であり、運営体制について明確でなかったことから、委託先団体の行政への依存が見られたため、
77	奈良市グリーンホールの運営	観光戦略課	H16	継続	B	館運営に関して、本来の目的(国際交流の促進)に鑑み、自主事業、貸館業務を考える必要がある。
78	奈良工芸フェスティバル	商工労政課	H1	継続	B	企画内容、実施方法等については実行委員会が主体で行っており、自主的な活動がなされている。行政はフォローする形で携わっている。
79	開かれた市政	秘書課	H21	継続	C	協働の形態が情報提供のため、市民からの反応がないと評価が難しい。
80	まちかどトーク	広報広聴課	H18	継続	A	実施後に得られたアンケートによると、市の市政がよくわかると好評を得ている。
81	「奈良しみんだより」の英訳	広報広聴課	-	継続	A	評価項目について、事業の目的を達成することができているため。
82	パブリックコメント	広報広聴課	H17	継続	A	市の政策の基本的な計画づくり等について、市民の声を聴くことができた。
83	タウンミーティング	地域活動推進課	H18	廃止		「地域要望を聞く会」と統合し、平成25年度より「地域ミーティング」を実施することになったため、タウンミーティングは開催せず。
84	まちづくり振興事業「月ヶ瀬地域振興協議会」	月ヶ瀬行政センター地域振興課	H17	継続	B	目的を共有し地域振興に係る事業の企画及び実施を行ってきた。役割の明確化及び自主性・自立化についての協議を深めていかなければならない。
85	都祁まちづくり協議会事業	都祁行政センター地域振興課	H17	継続	B	それぞれの役割について更に協議を進める必要があるが、年次目標も達成され、都祁地域の活性化につながった。
86	地域要望を聞く会	地域活動推進課	H18	廃止		「タウンミーティング」と統合し、平成25年度より「地域ミーティング」を実施することになったため、地域要望を聞く会は開催せず。
87	協働のための研修	協働推進課	H20	継続	B	市職員と市民や市民公益活動団体と共に研修を受講することで、それぞれの協働に対する意識の向上が図れた。
88	自治連合会等活動推進	地域活動推進課 他	-	継続	B	地域コミュニティの再生に向けて新たな事業を展開し、少しずつ成果が表れている。
89	未来の奈良市政策提案キャラバン	総合政策課	H24	継続	A	決勝コンテストでのプレゼンテーションに向け、参加してもらった高校生・大学生等のグループに積極的にプログラムに参加してもらうことができた。また、決勝大会には前年度と同程度の観客の来場があった。
90	総合計画の施策評価における第三者評価	総合政策課	H24	継続		今年度においては内部評価により実施した。

No.	事業名	課名	開始年度	方向性	総合評価	協働に対する総合評価の理由など
91	奈良市行財政改革評価会議	行政経営課	H24	縮小	B	協働が可能な局面では協働できたため。
92	入札制度の適正化	契約課	-	継続	B	委員会との連携は良い評価ができるといえるが、制度の改善点については、具体的な改善策を決定する必要があると考えられるため。
93	租税教室の開催(講師の派遣)	市民税課	H20	継続	A	お互いに目的を共有し、役割を分担しながら事業の実施を行えたと考える。
94	奈良市中心のふるさと応援寄附促進事業	納税課	H20	継続	B	前年度より、寄附件数が増加した。また、新たなところへの具体的なPRが出来た。

継続	90
拡大	0
縮小	1
廃止	2
完了	1
合計	94

A	32
B	51
C	5
D	2
E	0
空白	4
合計	94